

社会の構成(ピラミッド型社会)

保有資産により単純に分類

よく誤解されるのが、陰謀論によく出てくる話で、一部の支配者層(富裕層・国家権力・国際金融資本)が一般大衆を含めて社会全体をコントロールしていると言うこと。多少の誘導(プロパガンダ)はあるが、財力をもとに政府を牛耳り、社会を完全支配することなどあり得ない。権力者たちは、あくまで自分たちの保身のために、自分たちの真の姿(不正や不祥事)を大衆から隠すのであり、実は大衆の反抗(批判)を最も恐れている。

どれほど社会が豊かになっても、ギリギリで生活している貧困層の存在はなくなる。例えば生活に直接かかわる消費税を増税することは、彼らを飢え死にさせるに等しい。もしも、彼らの一人でも飢え死にするなら、政府が破産した方が増しである。この社会は助け合いである。裕福になるならみんなが裕福になる。貧しくなるならみんなが貧しくなる。

現実社会において、こんな完全なピラミッドなど、本当は存在しない

富裕層
全体の1パーセント以下

富裕層は、エリート層ではない。教養があり、物事を合理的に考え、慈善家でもある。それに対してエリートは、大衆を支配したいという願望があるが、逆に大衆を最も恐れている。また経済界の連中はただ儲けることしか頭にない。社会をそのために誘導する。即ち真の意味で政治的意図を持つことができない。

中間(中流)層
(生活に不満無し)

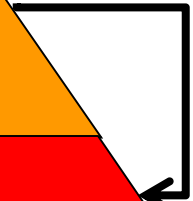
いくら所得があっても、今の生活に不満な者は、中間層ですらない。底辺層である。逆に所得が少なくても、今の生活に満足なら、底辺層ではない。

マス層=底辺層
(生活に不満だが支援無しで何とか生きていける)
全体の50パーセント以上

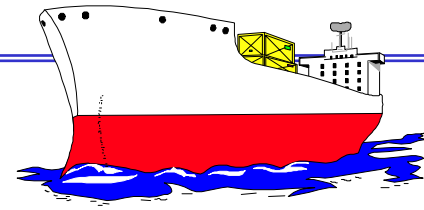
この底辺層の人間の特徴として(全員ではない)、毎日味気ない(楽しくもない、不満だらけの)生活を強いられており、その状況を少しでも改善する(誤魔化す)ために、ギャンブル等の遊興に精を出す。宝くじに金を費やすのもそのためである。必ず損をすることが分からないのである。万が一にも幸運を手にするという幻想を捨てきれない。宝くじを当てて、この貧乏な状況から抜け出したいのである。しかし結局は損をして、いつまで経ってもこの状況から抜け出せない。それに対して裕福層は、損をすることが分かっているため、宝くじなど買わないのである。

貧困層
(支援が無いと生活困難)
全体の数10パーセント

バッシング



社会の構成(支配者と大衆)



誤解しないでほしいのは、前頁に示した社会の整然としたピラミッド構造が、実際にあるわけではないということ。社会の真の姿は以下に示すものかもしれない。(これも単なるイメージに過ぎない)

一般大衆

支配者層・政治的リーダー
王侯貴族・大富豪
経済エリート・政治エリート
技能エリート

多少(数百人、数千人程度)海に落ちて
も、権力者たちは気に
しない。大勢に影
響なし。

支配・洗脳・誘導・時に弾圧

集団で反抗されることに恐怖

牽引ワイヤ

服従・忠誠・依存・時に憎しみ怒り

動力船

動力なし

支配者層は全体の0.1パーセント以下である。自分たちの保身のため、あるいは大衆に真実を悟らせないために、大衆をだまし、誘導し、人間の持つ依存本能を利用してカリスマを演出し、時に恐怖で大衆を支配しようとする。ただし、権力者たちは大衆から反抗されることを最も恐れている。なぜなら大衆の方が数として圧倒的に勝るからである。独裁者ほど大衆を病的に恐れる。

支配者層は社会のリーダーとして大衆を導く。例えるなら、動力のある船で大衆の乗る大型船(鯨)を牽引しているがごとくである。支配者層は全体の極一部であるため、動力船に乗るのは少数である。それに対して大衆が乗る船は、溢れんばかりである。船を大型にするとしても、動力船が牽引できる大きさには限界がある。満員の船から時々大衆の一部が海に落とされる。しかし支配者層はそんなことは気にしない。そんな無慈悲な権力者でも大衆は身を任せるのである。なぜなら大衆は自ら船を動かすことができない。社会に不満を持っていても権力者たちには逆らわず、逆に媚び売る。生き残るためである。大衆は支配者たちに盲目的に従う。自分たち自ら社会の進むべき方向を定めることができず、社会を動かすこともできない。それは正に動力のない船に乗っているようなもの。ただし、政治的リーダーが正しく大衆を導いてくれる保証などどこにもない。

エリートたちは、大衆を無能、社会的に価値のない存在だと思っている(口ではそんな本音は言わないが、心底そう思っている)。従って、大衆に多少の犠牲が生じて問題にしない。たとえ人口の半数を失っても、体制が維持されていればよい。

もし、エリートたちが大衆は不要だと思えば、いっそ牽引ワイヤを切れればよい。即ち大衆など一人残らず見捨てればよいのだ。そうなれば大衆の裏切りに怯える必要もなく、楽である。しかし権力者たちにとっても大衆(下僕)が一人残らずいなくなると困るのである。実はエリートたちも大衆を当てにしており、大衆がいなければ何一つできず、生きてはいけないのである。あたかも肉食獣が草食獣がいなければ死滅するのと同じである。

つまり、エリートと大衆は持ちつ持たれつ。共に他方がいなければ生きてはいけない関係にある。即ち野生動物と何一つ変わらない。